

ふんいきりん。

あじま ゆきこ
安島 由希子さん
 社会福祉法人 仁心会
 みと東部特別養護老人ホーム
 介護福祉士



社会福祉法人仁心会は、水戸市とひたちなか市で高齢者福祉施設を運営しています。高齢者の家族の助けとなり、利用者が安心・快適に過ごせる生活の場と質の高い介護、医療に強い介護を提供していくことが基本理念です。安島さんが勤務する「みと東部特別養護老人ホーム」は定員80名、内ショートステイ10名、さらに施設内にデイサービスセンター、居宅介護支援事業所があります。安島さんは、同施設のオープン時からのスタッフで在職6年目、現在は介護福祉士として利用者の食事の準備や介助、入浴介助、排泄介助など日常の介護全般を担当。ユニットリーダーとしても、スタッフの信頼を得て活躍しています。

人と関わる仕事が好きだから

安島さんが福祉の仕事に就いたのは、同施設が初めてでした。「結婚前はエステサロンで美顔や痩身の施術をしていました。結婚して仕事を辞めて子育てに専念し、子どもが小学校に上がったからは飲食店のフロアのパートを始めました。その頃から、手に職をつけたいという気持ちがあり、何がいいかと考えた時に人と関わる仕事が私は好きだと感じたので、介護の仕事に興味を持ちました」と話します。おばあちゃん子だったという安島さんは、高齢者と関わる仕事を目指し、パートで働きながら介護職員初任者研修を受講しました。「介護の仕事の内容が詳しくわからなかったので勉強したかったのと、実際に現場に入った時に、知識があった方が仕事がしやすいと思ったからです。働

「社会に貢献できる仕事、人の役に立てる喜びがあります」



きながらの勉強だったので、疲れて眠くなってしまいうこともあり大変でしたが、現在の仕事につながる知識を得られたので頑張れました」と振り返ります。そんな中、安島さんは、研修で気付いたことがありました。「祖母はだんだんと目が見えなくなってきて、電話も出られなくなり、食事も食べこぼしたりしていました。その時は認知症というのが分からなかったのですが、歳をとってできなくなったのだと思っていました。初任者研修の講師の先生が、認知症の症状が進むと失行という状態になり、日常の簡単な動作ができなくなるという話をされて、祖母は認知症でいろんなことができなくなったのだと気付きました」と話します。研修を修了した頃、新しく特別養護老人ホームができるという募集し、就職したのが今の施設です。

より良いケアができた時にやりがいを感じる

現在は、「とにかく充実している」と言う安島さん。仕事のやりがいを感じる時は、「チームワークが必要な仕事なので、スタッフと一緒にになって利用者の適切なケアを考え、それがうまくいって利用者が快適に過ごせているなど、より良いケアができていると実感できたときに、やりがいを感じ



ます」とのこと。また、リーダーとしてベテラン介護士や外国人スタッフをまとめていくことも、やりがいの一つになっています。仕事で大変さを感じることは、「認知症で不穏状態にある方への対応です。例えば家に帰りたいと言っているときに、どうしてあげたらいいのか、どうすれば不安とか心配を取り除いてあげられるのかが難しい。一人ひとり違うので、職場の仲間に相談しながら対応しています。ベテランの介護士は経験を積んでいますから、こういう時はこういう感じで、と成功パターンをアドバイスしてくれます。また、若いスタッフも、この方は何が好きで何を喜ぶかをよく見ていく

れるので、そういう日頃の気づきも大切にして、みんなで話し合いながら取り組んでいます」とのこと。日々の介護の中で、「ありがとう」という言葉や「ここに入って良かったよ」と言ってもらえると嬉しい、という安島さんです。



人との関わりが嫌いでない人なら大丈夫

福祉の仕事の魅力をたずねると、「とにかく社会に貢献できる、人の役に立てる喜びがあります。私自身、この仕事を始めて私にも人の役に立てることがあるのだなと思いました。それが、福祉の仕事の魅力です。また、利用者の反応が、ダイレクトに伝わることも魅力の一つです」福祉の仕事に向いているのは、「人との関わりが嫌いでない人、そこが一番大事です。優しい人、人の役に立ちたい気持ちがある人ならどなたでもできると思います。私も40歳を過ぎてから福祉の仕事を始めたので、何歳になっても大丈夫。悩んでいる方は、思い切って入ってきてほしいです。やってみて大変と思うこともあるでしょうが、その何倍も喜びの大きい仕事です」と話してくれました。安島さんのこれからの目標は、さらなるスキルアップです。「就職してからも、様々な研修を受けさせてもらって、資格を取得しています。今後の目標はケアマネジャーです」と、安島さんは次の目標に向かって

